

東京丸の内クラブ 第16回定例会 議事録
2018年2月28日分

1 開催概要

日時： 2018年2月28日（水） 12:00～13:15
場所： センチュリーコート丸の内 アーカンサスノースルーム

2 参加者

東京丸の内クラブ	17名	
第2580地区より	2名	
その他（事務局、付き添い）	2名	合計21名

3 議事内容：仮例会（司会進行：朴善子）

- ・国際ロータリー第2580地区、地区大会出席者による感想
 - ・2000人という規模に圧倒された。
 - ・ほとんど男性で、女性が少ないのにびっくりした
 - ・将来の私達もいずれは「親」になるのだと、気持ちが引き締まった
 - ・RI会長代理足立功一先生の講演がとても素晴らしかった
 - ・上山パストガバナーをはじめ、素晴らしい方々に応援されている私達はとても幸せと感じ、改めていいクラブを作っていかなくてはと思った。
- ・5月28日認証状授与式について（尾崎）

現在、招待者を選定している。地区からの招待者に関しては、土居・鈴木両研修サブリーダーにお世話になる。それに加えて、今後私達が奉仕活動をやっていく上で、つながっていきたい方々をリストアップしていきたい。もし、「自分はこういう人を知っている」という情報があったらぜひ提供していただきたい。3月中旬には招待状を発送する予定なので、ご協力をお願いしたい。
- ・幹事報告（朴）
 - ① 備品について： 正式な例会に必要な備品の手配、および委託業者の選定を進めている。なお、購入済みのものは、鐘、ビジターカード。検討中のものは、ニコニコボックス、印鑑。ロゴマークが決定次第購入するものは、皆様の名刺、バナー、名札。
 - ② 細則作成： 当クラブの細則は推奨ロータリー細則をひな型に現在嘉納委員に作成をお願いしている。皆様には近日中にお知らせする。
 - ③ 例会の円滑な運営に向けて： 各委員、役割分担がある。正式発足後のルーティンについて整理を進めている。

・委員会報告：丸の内チャーターナイト準備委員会（紫月）

5月28日(月)、場所は東京ステーションホテル。18時受付開始。

私達会員は17時集合なので、遅れないように。

現在120名ほど招待する予定。私達は招待する側として、皆様に楽しんでいただけるような認証状授与式としたい。ご協力よろしく願います。

・研修1：クラブ奉仕委員会の例会等における役割について(鈴木研修副リーダー)

「奉仕」という名称がついているが、内部的な「クラブ運営管理」のこと。例えば、例会の司会などは順番でやることになるが、「いつかは自分の番」と思って見ていることが必要。

また、例会の受付も主として行うのは会員で、事務局は従。ロータリアンのビジターも受け付ける一方、ロータリアンではないゲストの方もお迎えしてご案内しなくてはならない。また、ビジターからは会費も頂く必要がある。もし、担当がお休みの場合はどうするか、なども決めておかななくてはならない。会費の頂き方も決めておかななくてはいけない。例えば、ガバナーがいらっしゃる場合にどうするか。会費を頂くのか、ニコニコとして受け付けるのか。また、卓話の人からは頂けないのでどうするか（ニコニコは別）。留学生からも頂けないし、会員の家族の分は会員が支払うなど、クラブでルール作りをしておく必要がある。

ニコニコも一般会計に入れるか、入れないか、なども決めておく必要がある。クラブの通帳に関しては、毎年名義人を変えるわけにはいかないの、3-4年は同じ会長名ということが多い。

司会も前もって決めておく。そのうちに今日の議題をボードに書くことになるが、それも司会の仕事。

出席の管理。一応、例会には6割は出席することが必要となっている。欠席した人は2週間以内にメーキャップしなくてはいけないので、それを促す連絡も必要（幹事またはクラブ奉仕委員会から）となる。

ロータリーの規則は、国際ロータリーの定款と細則、標準の定款とクラブの細則、この4つ。改正は例会で全票の2/3の賛成で出来るという人もいるし、理事会でという人もいる。

役員と理事については、必ずしも一致する訳ではなく、役員ではない理事もいる。理事会は役員+その他の理事で構成され、毎月初めの例会の前後に行われる。

クラブ奉仕の委員長は、ほとんどの場合翌年の会長になる。その人は副会長でもあり、会長エレクトでもある。副会長とは2種類あり、次に会長になる人、およびすでに会長だった人。ロータリーの点鐘は、会長および会長経験者のみ可能で、これから会長をやる人はだめ、ということになっている

・研修2： 土居研修サブリーダーのお話（土居研修サブリーダー）

今日は皆さんに「ロータリー入門書」をお配りした。これは誰がくれたものかはまだ決まっていない。1週間くらいかけてじっくり読んでいただけたらと思う。これは規定審議会のあと、3年に一回改訂される。これは2016年版だが、今回は2019年4月。日本からは、日本にオリンピックを招致した水野正人氏（東京 RC）が代表。鈴木研修サブリーダーもゲスト参加される予定。全部英語で議論される。この入門書を印刷しているのが、お茶の水 RC の牛島会長。彼は、丸の内クラブの「新クラブアドバイザー」（昔の「特別代表」）として、永らくお付き合いしていくこととなるので、よろしく願いたい。

今、研修委員会で鈴木研修サブリーダーを中心に、「ロータリーの基本 1～8」を作成中。現在6まで出来ており、次年度松坂ガバナーの時に7、8を作成する予定。

先日の地区大会には丸の内から10名も来ていただいた。私達の第2580地区は34クラブあるが、そのうち30クラブから出席し、席が足りなくなるほどの盛会であった。登録者数は2000を超えていたと思う。

皆さんの登録料については、実行委員長を通してガバナーに交渉の末、ゼロにしてもらった。千人を超える地区大会の場で、新しいクラブの人たちを立たせてガバナーが紹介するというのは、今までにないこと。吉田雅俊ガバナーもよほど嬉しかったのだと思う。その前日、大会の初日に、前ガバナーの上山さん、鈴木さん、お茶の水の会長の牛島さん、丸の内から尾崎さんと臼杵さんにも立ち会ってもらって、新クラブ創立申請書にサインした。私達も皆よかったなと実感できた。

この後、加盟認証状伝達式の招待客を決めなくてはならない。皆さんが招待したい人を優先させて、残りをロータリーのメンバーとする。私はもうロータリーの招待者をリストアップしてきたが、すでに120名を超えてしまった。これを削っていく。これから、良い会になるように相談していきましょう。

・イニシエーション・スピーチ（早野委員）

次ページ。

4 イニシエーション・スピーチ： 早野海兵会員

株式会社画龍の早野と申します。よろしくお願ひします。

東京丸の内クラブは、ここ数週間でいろいろなことが決まって、盛り上がってきました。このような機会に恵まれて感謝しています。これからも、バナーやホームページなど、いろいろと決めなければいけないので、この機会に皆さんにご覧いただこうと思ひますが、その前にまず私の会社や、普段の活動などをご紹介させていただきます。

私は株式会社画龍というコンピューターグラフィックスを中心とした映像制作の会社をやっています。エンターテイメントの世界（CM、映画、ミュージックの世界）は、20年ほど前から専らコンピューターでアート作品を制作するようになりました。まずは弊社の紹介映像をご覧ください。（映像）

まずは、私の略歴からお話します。私は美術大学を出て、ソニーミュージックに入社し、映像の会社、ソニーコンピュータを経て、現在の会社を立ち上げ、今年で11年目に突入いたしました。

作品は、ゲームのオープニングとか、テレビ番組のタイトル（K1、スポーツナンバーワン決定戦、世界陸上、世界仰天ニュース等）を作っています。その他グラフィック関係（ゴジラ）、アニメ（エバンゲリオン）、珍しいものではダンヒルのスーツのデザインもしています。30周年記念ムービーに出てくる特殊なガンダムも、私がデザインしました。私は小学生の頃からガンダムの大ファンですが、そのガンダムの生みの親である富野由悠季氏の隣に座って、一緒にガンダムのデザインをやらせて頂き、光栄の極みでした。最近ですと、セイコー本社の一階にある巨大な世界時計も私がデザインしております。

現在、オリンピックに向けて、エンターテインメント業界は非常に盛り上がっています。特にイベントの仕事が盛り上がっているので、コンサートやアーティストのPVも多く手掛けています。

私も業界ではすでに古株になってきました。コンピューターグラフィックスは非常に若い業界で、世界で初めてCGを使った人がまだ生きていくくらいです。この業界における問題点は、まず優秀な人材の確保が困難であること。クリエイティブな業界は、合う、合わないが難しく、なかなか新しい人が入ってこないという問題があります。私は「CG WORLD」というCGの専門雑誌に17～8年間連載を続けており、本も3冊ほど書き、専門学校等の講師を務めたりして、なるべくいろいろな方がこの業界に興味を持ち、入ってきてくれるようにと活動をしています。

クリエイティブな業界に、特に地方のお子さんが進みたいといった場合、必ず親御さんに反対されるという実情があります。しかし、この業界は、人に楽しみ、幸せを与えられる素晴らしい業界だと私は思っています。

次の問題点は、いわゆるブラックな業界のようなイメージがあることです。CGの世界はまだまだ若い世界で、一般的な認知が進んでいません。私が働き始めた25

年ほど前は、まだCGという名前すら知られていませんでした。今もなお、その仕事はどういう現状なのか、どのようなことをするのか、が浸透していません。何とか認知を一般的にして、クリエイターの地位を向上させてあげたい、という思いがあります。海外では花形の職業だったりするが、日本ではアニメーター同様、きつそうなイメージがまだまだあるのです。本来、私はデザイナーなので、部屋で作品を作っているのが一番幸せで、なるべく表には出たくないのですが、このようなお話を各所ですることによって、この業界の知名度を上げようと活動を続けています。

また、私は福島出身ですが、地方でコンテストや学校でのボランティア授業を行って、地方の若者が東京に出てくるきっかけを作ってあげたいとも思っています。

昨年のご縁があって、台湾の方に講師として呼ばれて行ってきました。台湾はクリエイティブな分野に国を挙げて投資をされており、政府自ら世界各国から優秀な方を招いて講演をさせたりしています。日本のクリエイターは職人気質で内にこもる傾向にありますが、積極的に外から取り入れることによってどんどん成長している国もあります。

この台湾出張では、面白い経験をしました。参加者でナイトマーケットに出かけたのですが、お互い言葉が通じません。そこで、クリエイター同士、代わりに絵を描いたら、難なく意思の疎通が出来たのです。一晩会話を全くせずに絵だけ描いて過ごし、とても仲良くなれたという貴重な経験でした。

言葉や字では表現できなくても、絵を描くことで通じ合えることがあります。国境を越えてコミュニケーションがとれる、このアートの分野をこれからの若者たちにもっと広げていけたらと思っています。このたびロータリーに参加させていただいたのも、ロータリーの素晴らしい方達からのお知恵を拝借して、この業界の発展に寄与できたらという気持ちがあったからです。

ここからは、東京丸の内ロータリークラブのロゴのお話です。ゴシック調の力強い感じで作りしました。丸の内ということで、東京駅のどっしりとした感じで、駅のレンガ色をイメージしています。一度基本のロゴが決まるとバリエーションも付けることが出来ます。ロータリーではいろいろなロゴに対する規制がありますが、名刺やバッジにつける分には問題ないそうです。

また、バナーに関しては、ロータリーのロゴの位置、必ず「JAPAN」を入れるという以外は自由でいいそうです。背景には丸の内のオフィスビルをイメージしました。このオフィスビルは黄金律をさせて作っています。バナーにはフリンジもつける方向で検討します。

以 上